

別添 2

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別：保育所
事業所名：聖ヨゼフ保育園岡谷

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】内容評価項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コ メント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	b)	<input type="checkbox"/> 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。 <input type="checkbox"/> 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。 <input type="checkbox"/> 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。	[取り組み状況] カトリック精神にもとづいて、多くの人から愛されていることを知り、自分も周りの人も大切にすることを育むという方針で、子どもが主体となる保育を進めている。また、保育指針をもとにして保育課程の編成がなされている。 [改善課題] 子どもの発達のプロセスをみながら保育課程を年度初めに職員会で見直しをしており、全職員が参加しての地域や家庭の実態に基づいたものとなる保育の記録、評価が期待される。
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。 ② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b)	<input type="checkbox"/> 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 <input type="checkbox"/> 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 <input type="checkbox"/> 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 9 内装等には、木材を利用している。 <input type="checkbox"/> 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 <input type="checkbox"/> 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。	[取り組み状況] 南側に面した園舎は、採光も良く園庭の中央には大きなどんぐりの木があり、夏は木陰にもなり、秋は木の実を拾っての創作活動と、園のシンボルになっている。 [改善課題] 3才以上児の部屋が狭いため職員の工夫が見られるものの、子どもの生活の場や活動の場として、整理・整頓に心がけることも必要と思われる。
				b)	<input checked="" type="checkbox"/> 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。 <input checked="" type="checkbox"/> 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。 <input type="checkbox"/> 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。 <input type="checkbox"/> 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。 <input type="checkbox"/> 18 せかす言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。	[取り組み状況] 一人ひとりがかけがえのない子どもであるという事を職員全員で共有し、子どもの個人差に配慮した保育、言葉がけや子どもへの話し方など、援助の方法の実践に心掛けている。 [改善課題] 生きる力を主体的に育むという方針も、保育計画の中に更に組み入れていくことも必要であろう。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
		③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/>	19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。	[取り組み状況] 一人ひとりの子どもの発達に配慮した食事・排せつ・睡眠・着脱・清潔に心がけており、それらの記録もある。また、自分でやろうという気持ちを大切にしている。 [改善課題] 排せつなどで失敗した場合、子どものプライバシーに配慮したコーナーを作るなど、環境への配慮や整備が必要と思われる。
	<input checked="" type="checkbox"/>			20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。		
	<input type="checkbox"/>			21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。		
		④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b)	<input checked="" type="checkbox"/>	22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。	[取り組み状況] 登園して所持品を片づけてから、それぞれ自分の遊びをみつけられるようなコーナーや玩具などが用意されている。 天気の良い日などは戸外での遊びを多くとり、身体を十分に動かして遊ぶ姿がある。また、園から歩いて20分位の所に公園など、散歩に行く機会や場所も多くあり、子ども達は季節の変化を肌だけでなく、視覚で感じることも可能である。 [改善課題] 立地条件も良く、公共施設等も近く、地域住民やそこで働く人達との関わりを更に深めていくのも良いと思われる。
	<input checked="" type="checkbox"/>			23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。		
	<input type="checkbox"/>			24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。		
	<input checked="" type="checkbox"/>			25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。		
	<input checked="" type="checkbox"/>			26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。		
	<input checked="" type="checkbox"/>			27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。		
	<input checked="" type="checkbox"/>			28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。		
	<input checked="" type="checkbox"/>			29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。		
	<input checked="" type="checkbox"/>			30 社会的ルールや態度を身につけていこう配慮している。		
	<input checked="" type="checkbox"/>			31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。		
		⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<input type="checkbox"/>	32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。	[取り組み状況] 一人ひとりの子どもの状態に寄り添い、家庭的な雰囲気の中で信頼と愛情を持って発達を促すような保育、特に心の安定した保育に心がけ、離乳食についても保護者と栄養士が連携しての食事作りを行っている。「すこやか帳」を通して、日々子どもの状態について保護者・保育士が連携している。 [改善課題] 生活のリズムは各家庭で異なり、睡眠を必要とする乳児用にベットなどを常に空けておくなど、細かな配慮も必要であろう。
	<input type="checkbox"/>			33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。		
	<input type="checkbox"/>			34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。		
			b)	<input checked="" type="checkbox"/>	35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係(情緒の安定)が持てるよう配慮している。	
	<input checked="" type="checkbox"/>			36 子どもの表情を大切にし、応答的な関わりをしている。		
	<input checked="" type="checkbox"/>			37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。		
	<input checked="" type="checkbox"/>			38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。		
	<input checked="" type="checkbox"/>			39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。		

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
		⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		■	40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。	[取り組み状況] 南側の採光の良い二階の部屋で、畳のほふく室、床にホットカーペットをひいたコーナーで遊んだり、それぞれ保育士と関わりながら安心できる広さの環境である。 [改善課題] 排せつの自立にむけて、オムツの交換などは手作りのマットで対応しており、子どもの安全と保育士の身体への負担を考慮した、オムツ台の利用も必要かと思われる。 また、子どもの探索活動についての保育士による実現可能な独自の工夫はまだ期待できると思われる。
				□	41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。	
				■	42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。	
			b)	■	43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。	
				■	44 保育士等が、友だちとの関わりの中を仲立ちをしている。	
				■	45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。	
				■	46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。	
		⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		■	47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。	[取り組み状況] 3～5才の年齢に応じた保育を行いながら、異年齢交流の縦割り保育を行っている。5才児では月に2回、外国人講師によるハローの会を行い簡単なゲーム・歌・英会話など楽しむ機会を作っている。また、お泊り保育・キャンプなど、友達と協力することで大きな成長を促す取り組みもあり、保護者にも好評である。 [改善課題] 各年齢のこれらの保育を体系付け意識した保育になると、子どもも保育士も更に成長していくと思われる。
				■	48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。	
			b)	■	49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。	
				■	50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。	
		⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		□	51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。	[取り組み状況] 支援が必要な子どもには加配保育士を配置して保育し、市の保健師からの助言を受けている。また、2か月に1回は、個別計画をたてて指導計画の見直しをしている。そして、研修への参加で知識や情報を得るようにしている。 [改善課題] 子どもや保護者が、身体が不自由な場合も想定して、園舎内のバリアフリーについての検討・対応が期待される。
				■	52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。	
				■	53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。	
				■	54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。	
			b)	■	55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。	
				■	56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。	
				■	57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。	
			□	58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。		

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。 <input type="checkbox"/> 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。 <input checked="" type="checkbox"/> 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。	<p>[取り組み状況]</p> <p>延長保育を希望し利用している園児が7割近くなので、一人ひとりの子どもの様子をみながら粘土やパズルをしたり、遊びの工夫をしている。また、危険のないように言葉掛けをしたり、子どもの気持ちを受けとめる保育を心がけている。6時以降になるとおにぎり、麦茶の補食を用意している。</p> <p>[改善課題]</p> <p>建物の構造上ゆったりとくつろぐ環境は難しいが、カーペットや畳をひくなどして家庭的な環境の配慮は期待したい。</p>
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。		b)	<input checked="" type="checkbox"/> 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。 <input checked="" type="checkbox"/> 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。 <input type="checkbox"/> 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。 <input checked="" type="checkbox"/> 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。
	(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 <input checked="" type="checkbox"/> 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 <input type="checkbox"/> 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。 <input checked="" type="checkbox"/> 77 職員に乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する必要な情報提供をしている。		<p>[取り組み状況]</p> <p>身体測定を毎月行い、測定の結果から給与栄養目標量を算出して献立作成を行うなど、細かな配慮が行われている。 クラス担任がケガの確認や与薬などを行っているが、日々の子どもの体調チェックは看護師が行っているのでアドバイスなども得やすい環境である。 また、保護者に感染症の発生情報などを見やすい場所に掲示している。</p> <p>[改善課題]</p> <p>保護者に感染症の予防対策など、提供情報の内容の充実は期待したいものである。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	<p>79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。</p> <p>80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。</p> <p>81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。</p>	<p>[取り組み状況]</p> <p>年2回の医師による健康診断、歯科検診が行われ、結果も保護者に知らせている。また、毎日、食後の歯ブラシを行っており、親子歯ブラシ指導も3才児対象に実施している。 健診後の治療の際は、治療証明書の受理の下、確認しての保育が行われている。</p>
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b)	<p>82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</p> <p>83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</p> <p>84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。</p> <p>85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。</p> <p>86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。</p> <p>87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。</p>	<p>[取り組み状況]</p> <p>アレルギーのある子には医師の診断書を下に指示書を出してもらい、保護者、栄養士が確認して除去食の提供を行っている。</p> <p>[改善課題]</p> <p>アレルギー疾患などの研修を行い、全職員の共通理解と知識が必要と思われる。</p>
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<p>88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。</p> <p>89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。</p> <p>90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。</p> <p>91 食器の材質や形などに配慮している。</p> <p>92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。</p> <p>93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。</p> <p>94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。</p> <p>95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。</p>	<p>[取り組み状況]</p> <p>食の習慣は0才から形成されることに注力し、正しい食習慣が身につくように給食の年間計画を立てており、食事を通して子どもの心身の発達や健康の保持を目標に行っている。 発行する献立表や給食だよりでは、子どもの食の様子や献立を紹介している。 子どもの誕生会に保護者の参加もあり、一緒に食する取り組みも行っている。 毎日の給食とおやつをサンプルケースに展示しており、親子の会話も進み、給食を楽しんでいる。また、食器もセラミックを使用するなどの配慮もある。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 ■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 ■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものである。 ■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 ■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 ■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 ■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 ■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>月1回、主任、未満児・以上児の各代表、栄養士との給食検討委員会があり、食材の切り方、味付けなどを話し合っているため、残食はほとんどなく、子どもの食べる量を把握しながら徐々に増やしている。</p> <p>園児は地域の産物(うなぎ・ワカサギ・トウモロコシ)を生かした郷土食を味わい、郷土への親しみを持ち、また、伝統料理の子どもの日の餅つき、七夕、まゆ玉など、豊かな食の体験をしている。</p> <p>年齢に応じては野菜を育て、収穫し、育てた野菜を食べるなど、食育も進んでいる。</p> <p>また、栄養士、調理員がクラスの訪問をしたり、一緒に食事を楽しむ機会も設けられており、大人との食事の様子、マナー、会話など、得るものは大きいと感心する。</p>
2 子 育 て 支 援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> □ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 ■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 ■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。 ■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>毎月園だよりで園全体の取り組みを知らせ、クラスだよりも月1回配布し、子どもの様子や誕生月の子どもの姿、行事について知らせている。行事後はお知らせ板で写真などを掲示している。年2回の保育参観、祖父母参観、運動会などで園の理解を図っている。</p> <p>支援を要する保護者(外国籍)にわかりやすい言葉や通訳を通しての配慮もある。そして、食事の事なども連絡を密にしている。また、年1回の個別懇談会では相談も受けている。</p>	
	(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> □ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 ■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 ■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 □ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 □ 112 相談内容を適切に記録している。 ■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。 	<p>[改善課題]</p> <p>ホワイトボードを利用して、その日の活動予定などを記入し保護者に知らせているが、内容・方法についての検討や連絡帳の使用についての職員間での共通理解を深める取り組みなどは期待したい。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	<input checked="" type="checkbox"/> 114 <input type="checkbox"/> 115 <input checked="" type="checkbox"/> 116 <input checked="" type="checkbox"/> 117 <input checked="" type="checkbox"/> 118 <input type="checkbox"/> 119 <input type="checkbox"/> 120	虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 虐待等権利侵害の可能性がある職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。	[取り組み状況] 朝の視診や身体測定、オムツ交換時など、日頃の子どもの様子を観察するように注力している。また、要保護児童対策協議会に出席し、地域の子育て情報の把握に努めている。 [改善課題] 虐待対策マニュアルについて職員間で研修を行ったり、発生の原因を知ることによって、虐待の防止やリスク軽減についての専門職としての可能性など、定期的な研修は期待したい。 また、地域の家庭相談員や民生委員との連携の体制作りなど、充実させることも必要と思われる。
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	<input checked="" type="checkbox"/> 121 <input type="checkbox"/> 122 <input type="checkbox"/> 123 <input type="checkbox"/> 124 <input type="checkbox"/> 125 <input type="checkbox"/> 126	保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。	[取り組み状況] 保育計画の月案、週案、日案の項目に評価と課題の欄があるものの、保育士が実践における結果の記録となっている。 また、自己評価についての内容や活用は模索状態と感じる。 [改善課題] 実践を通しての日々の振り返りを職員間で話し合う機会を増やし、日々の振り返りからの自己評価への進化・活用など、実践の保育を見える化する、言語化する取り組みで現状の認識も深まり、保育力も更に高まると思われる。